

園内研究

『豊かな表現力を育てる指導法の工夫Ⅱ～かくこと・つくることを通して～』

上ノ原幼稚園 園内研究では、2010年度からの4年間「体づくり」「食育」に関する指導法を学び、子どもたちが日常保育の中で楽しく取り組み、各年齢で効果が見られ、保育者間で指導法を共有することができました。

5年目(Ⅲ期目)の昨年度、新しい分野で更なる研究を深めたく、横山裕先生を講師にお迎えし、子どもの豊かな表現を引き出すための実践と指導法を学ぶことができました。保育者自身が、まずいろいろな素材や表現の手法、特性を知り、表現する楽しさを味わいました。そこから、子どもたちが豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにし、感じたこと、考えたこと、心を動かすことによって自分なりに楽しく表現することに繋がっていきました。

今年度は、昨年度学んだことを生かし、子ども自身が表現することが楽しい、と思えるよう新たな素材や技法を学び、研究をすすめてまいりました。1学期は、“つくること”を中心に研究教材を“粘土”に焦点をあて、2学期は、感じて描く＝“かくこと”を中心に、実践へとうつていきました。

表現

幼稚園教育要領より

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、
豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」

◆ねらい

- ・いろいろなものの美しさなどに出会い、様々に表現することなどを通して豊かな感性をもつこと
- ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと
- ・いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現する楽しさを味わうこと

めざす園児像

ことり組(3歳児)	・身近な素材や用具を使って、好きなように描いたり作ったりして表現する楽しさを感じる。
うさぎ組(4歳児)	・様々な素材にかかわり、作った物を使って遊んだり、自分なりに工夫したりして表現することを楽しむ。
きりん組(5歳児)	・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。

実践

◇粘土あそび より

3歳児 ことり組

【油粘土 紙粘土】

- 粘土の感触を楽しむことからはじめ、おだんご作り、型押し、ドーナツ作りを経験し、ドーナツ屋さんに発展した。
- 絵本に出てくる橋をみんなで作った後、友だちと長くつなげたり、かたつむりやお花を作ったり、と絵本や本物を見たという体験から、イメージが広がった。
- 粘土を丸くしたり、のばしたり、という技法を覚えたことで、自分が見たことのあるものをイメージしながら作ることへとつながった。

動物たちのおだんご



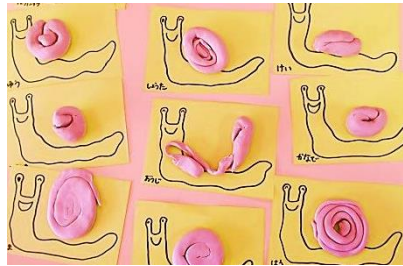
型押し 電車のできあがり



みんなの橋をつなげて…ながーい橋



ドーナツ屋さんのドーナツ



かたつむり

4 歳児 うさぎ組

【油粘土 小麦粉粘土 紙粘土(K クレイ) 土粘土】

- 油粘土に触れながら、丸める、平たくする、長細くする、型押しする、などさまざまな技法を覚えた。
- 技法を覚えたことで、身近で見聞きした体験から、自分の作りたいもの(表現したいもの)をイメージしながら作るように発展した。
- 種類の違う粘土に触れながら、それぞれの特徴をつかみ、楽しく、真剣に、集中し、心を動かされながら取り組んでいた。

自分の顔(油粘土)



小麦粉粘土作り→ロボットパン



土粘土



紙粘土(K クレイ) こんなにのびるよ～ →絵の具を混ぜて色粘土のできあがり

5 歳児 きりん組

【油粘土 紙粘土(2種)】

- 油粘土に型押ししながら、自分が見たことのある物を連想しながら自分のイメージを広げていった。
- 石粉粘土の特性を生かし、マーカーで色粘土にしていく過程の中で、マーカーそのものの色がそのまま粘土に発色されるのではないという意外性を楽しむことができた。

型押し材料



ペンのキャップ
ボタン、紐
クリップなど

石粉粘土にペンで色をつけ、まぜていくと…色粘土のできあがり



顔みたいになったよ



小さな花を集めてあじさいに

◇スポーツデー応援旗 より

3 歳児 ことり組

「木の上を よーいどん！ どんな色の虹がかかったかな？」

＝クレパスを使って楽しんで描く。＝

- 木に葉っぱを表現する際に、大きな木にしたいと、たくさんの葉っぱをタンポでスタンプする子どもの姿が見られた。ポンポンとスタンプしながら「お花描きたくなっちゃった」と言っている子どもがいた。
- 自分たちの木にクレパスで木の実やお花を描いた際に、自分が食べたことのある食べ物や見たことのあるものを描く姿が見られた。描きたいものがたくさんあり、1つの木に色々な果物や野菜を描いて自分だけの木を表現する子どもたちもいた。
- 木にぶつからないように、よーいどん！ することを伝えると、ゆっくりと力強い筆圧で大きくクレパスを走らせていた。楽しみながら虹を表現することに繋がった。
- たくさんのクレパスの色の中から自分の好きな色を選ぶ際に「次はどんな色にしようかな…」と自分で使いたい色の配色を子どもなりに考えながら描く姿が見られた。友だち同士の虹の色を見合って「きれいだね」「かわいい色の虹だね」と話しお互いの表現を認め合う会話も聞こえてきた。



4 歳児 うさぎ組

「どんな模様ができるかな？ 元気が出る自分の T シャツをつくろう！」

＝指と絵具との触覚を楽しみながら、模様を写していく＝

- はじめは絵具と指との感触を楽しむことが多く、指の跡を写しとるより、プラ版いっぱい絵具を塗ったり、手が絵具色になったりすることを楽しんでいた。2 回目、3 回目と回数を増すごとに、色が混ざっていく変化を楽しむようになった。
- 写しとった模様を見せると、「今度はここを写してみる」と自ら写しとりたい模様を描いていくようになった。
- T シャツ作りでは、絵具がついた画用紙を切ったので、少し厚めになっていたが、事前に折り紙や画用紙で折って切っていたので、失敗もなく形作ることができた。
- クレパスで T シャツに模様を描く際、襟元、首元、袖口以外に、保育者の発想にはなかった指跡を塗りこむ子どもがいた。



5 歳児 きりん組

「のびのびと体を動かす自分を描こう」

＝走る姿や跳ぶ姿など、のびのびと体を動かす自分の姿を描く。＝

- 公園に行って体を動かす活動をした直後に絵を描いたので、「走っているところを描こう」「なわとびをしているところにしよう」などと子どものイメージがより具体的に定まっていた。
- 体のどこが、どのように曲がっているのか、ということに絵に結び付けて描くのが難しい子どももあり、保育者が実際にポーズをとってひとつひとつ観察できるように指導した。
- 保育者の描いた手本を真似るだけでなく、さまざまな動きを表現しようとする姿が見られた。

